

第4回 多摩市総合計画審議会会議録（要旨）

■開催日時 平成30年9月4日（火） 午後7時～午後9時

■開催場所 多摩市役所3階302会議室

■出席委員 13名（50音順）

伊藤 雅子委員、尾中 信夫委員、小島 豊委員、榊 つきみ委員、
鈴木 充委員、妹尾 浩也委員、中島 康予委員、野坂 美穂委員、
長谷川 尚美委員、藤井 敬子委員、藤本 潔委員、松井 望委員、横山 誠一委員

■欠席委員 飯田 佳子委員、田村 豊委員

■事務局

田島企画課長、秋葉企画調整担当主査、西村主事、三富主事
パシフィックコンサルタンツ㈱ 齋藤氏

■傍聴者 なし

■議事日程

開会

- 1 前回要点録の確認
- 2 計画改定における進捗状況と今後の進め方について（報告）
- 3 計画改定における「基本的な考え方」のとりまとめについて（報告）
- 4 総合計画改定ワークショップの開催結果について（報告）
- 5 重要テーマと基本的な考え方について（協議）

6 その他

閉会

会 議 録 (要旨)

【開会】

出席委員は13名であり、過半数の出席があるため審議会は成立した。

【1 前回要点録の確認】

前回要点録（資料1）の確認を行い、修正等無く了承された。

【2 計画改定における進捗状況と今後の進め方について（報告）】

事務局より資料2について説明。

会長 庁内の各分科会等の傍聴は可能か。

事務局 予定していなかったが、審議会委員であれば傍聴は可能と考える。平日の昼間の時間帯となってしまうが、傍聴を希望する委員がいれば日程をご案内したい。

【3 計画改定における「基本的な考え方」のとりまとめについて（報告）】

事務局より資料3、4について説明。

会長 「基本的な考え方」について、計画における考え方を再度確認・共有する必要があると考える。今回改定の対象となっていない基本構想を最終的に目指すゴールとした際の、次期基本計画における明確化・重点化された目標・目的として重要テーマがあり、これが基本構想と基本計画を繋ぐ役割を持っていると認識している。また、それを束ねるイメージとして「健幸まちづくりの更なる拡充に向けて」という概念が設定されていると理解している。そのような認識でよいか。

事務局 概ねそのように考えている。重要テーマの下に位置する分野別の政策・施策の中でも、次期計画の重点的な事項を抽出したものとして3つの基本的な考え方と、それぞれ8つの重要テーマを設定している。なお、政策・施策の体系は現行基本計画から大きく変更することは現段階では想定していない。基本計画としては重点的な事項以外についても検討を進める必要が当然あるが、それは庁内で議論していきたいと考えている。

会長 重要テーマについて、どのような考え方で議論すれば良いのか。例えば、現在は各重要テーマの具体的な目的、方向性が現在見えにくい、そこを見出すという考え方なのか。その場合、庁内での検討内容と齟齬が生じる可能性もある。重要テーマの優先順位と共に、具体的な方向性を議論の上で示し、庁内検討の中で具体的な方向性や数値目標等の案を出しやすいように出来ると良いだろうか。この辺りにつ

いては次の議題でも議論できると思うので、引き続き議論したい。

【4 総合計画改定ワークショップの開催結果について（報告）】

事務局より資料5、6及び参考資料について説明。

会長 参加された委員から感想を簡単に頂きたい。

委員 概ね上手く議論がなされていたと考える。一点、参加者の年齢以外の属性について教えて頂きたい。11日には比較的若い方や女性が多いと感じた。それから、ワークショップでの市民意見は計画素案に反映するとの説明だったが、参加者の代表性や反映状況のフィードバック、情報開示の方法についてどう考えているか。

事務局 性別で言えば11日の方が女性が多い。

会長 その他の属性についても、情報があればまた共有して頂きたい。参加者の代表性についてはどう考えるか。例えば、多摩市の特性に対応した年齢層・性別だったのか。個人的な印象としては概ねバランスは良かったと感じた。

事務局 多摩市の年齢構成と比較すると、60,70代の参加者が少なく、比較的若い方が多かったという印象を持っている。

委員 私は参加していないが、各重要テーマについての具体的説明は行ったのか。一見すると明確な違いが分かりにくいテーマもあったと感じる。

会長 参考資料にあるように、簡単な説明は行った。ただご指摘の通り、分かりにくかった可能性はあると思われる。各重要テーマの表現等については、目的等が明確になるよう今後精査出来るとよい。

委員 概ね良い議論がされており、気が付いていなかった視点からの意見も頂いたと感じる。事務局に質問だが、ワークショップでの議論等を見ても各重要テーマがいずれも重要だと感じたが、重要テーマの優先順位について議論する意味はあるのか。

事務局 今回のワークショップの結果では、市民の考える優先度が示されたと捉えている。市としての現在の優先的な課題は概ね現在の重要テーマに含まれていると考えており、更に優先度を付ける必要は無いと考えている。ただ、各重要テーマの表現や具体的内容は精査されていないため、重要なテーマとして必要な要素等について今回意見を頂ければよいと考えている。

会長 直感的には、分かりやすくする為にはもう少し数を絞り込んでも良いとも感じる

が、皆様に議論頂きたい。ワークショップにおける二回の投票結果の解釈の仕方として、事前投票は直感、最終投票は共感に基づく投票結果と捉えることも出来るのではないかと。そう捉えると、どちらの投票結果も重要と思われ、厳格に数字から優先度等を捉える必要はないとも考えられる。

委員 ワークショップでは、各基本的な考え方ごとに重要テーマを8項目に絞り示したが、市民からは上手く網羅されていると受け止められたのではないかと。ワールドカフェに慣れている参加者に議論が誘導されたためか、ソフト面の取り組みに対してやや意見が集まったと感じるが、ワールドカフェそのものは良かったと考える。なお、4日の記録にある「判読不能」という箇所については、「バスタクシーの競合」という語句と思われる。

会長 確かに、ハード面の意見が少なかったことには少し驚いた。参加者は、現在の都市基盤を前提にこの4年間の暮らしをいかに豊かなものにするか、という発想だったのかもしれない。

委員 10年前から市による市民参加型の企画に参加してきたが、今回は互いに意見を尊重しているという印象を受けた。公募式の場合はハード面の要望が多く、無作為抽出の場合は落ち着いた対話が出来るという印象がある。

委員 基本的な考え方・重要テーマの説明を担当したが、時間の制約もあり、各重要テーマについてはあまり具体的に説明出来なかった。各テーマについての議論の深さは、参加者がそのテーマをどの程度具体的にイメージ出来たか、に左右されると感じた。ワークショップではそれでも良いが、審議会ではより具体的なイメージを持って議論すべきと考える。

【5 重要テーマと基本的な考え方について（協議）】

3 グループに分かれ議論。

■グループ1

委員 3つの基本的な考え方に共通して、やや抽象度の高い目的と具体的な手段が混在しているため整理すべきという意見が出た。例えば、基本的な考え方1「超高齢社会への対応」の中の①「誰もがいきいきと生活できるための健康づくり活動の支援」の一つの手段として、②「介護予防・フレイル予防の実践」があるのではないかと。その他、基本的な考え方2「若者世代・子育て世代が幸せに暮らせるためのまちづくり」の⑥「若者世代・子育て世代の暮らしのニーズを満たす賑わいあるまちづくり」の一つの手段として、⑧「若者世代・子育て世代の声をまちづくりに反映させる仕組みづくり」があるのではないかと。また、基本的な考え方1の方向性としては、

既に多摩市で様々な取り組みがされているため、それを整理した上で、情報を求めている主体、参画・協働して欲しい主体に発信することが重要ではないか。また、基本的な考え方2では、③「市独自の子ども・子育て支援や教育の推進」について、確かに市としての独自性は重要かもしれないが、一般の子育て世代としては、標準レベルの子育て・教育施策を充実させて欲しいのではないか。全体として、誰が、何を必要としていて、何をどのように届けるのか、といった視点で各テーマを具体化しなければ、抽象度が高いまま中身が分かりにくいと思われる。庁内でそのような具体的な内容を詰めて欲しい。

会長 目標と手段が混在しているという指摘はその通りと考える。

■グループ2

委員 市民として自分自身がすべきことなのか、専門家や行政がすべきことなのか、が混在しており分かりにくい。総合計画改定ワークショップにおいて絞り込んだ具体的な議論がなされなかったのは、この点にも要因があったのではないか。また、基本的な考え方3「地域力の強化（世代を超えた担い手、人材の育成）、まちの活力」について、仕組みづくりに関する重要テーマの得票数が事前投票から最終投票で減少しているが、むしろそのようなテーマこそが重要と考える。拠点づくり等のハード面の取り組みと異なり、仕組みづくりは分かりにくく難しいが、むしろ、それをいかに分かりやすくして計画に盛り込むか、が重要ではないか。グループ1の発表にあった、市の取り組みの見える化が必要という指摘と共通する。審議会としては各重要テーマの「5W2H」を見極める必要があると考える。

会長 各重要テーマに取り組む主体がイメージしにくいのは、行政だけが取り組むものではないというメッセージが込められていることも要因だろう。また、仕組みづくりについて、具体的に行政は何をするのか明確にすべきという指摘と考える。地域のつながりに関する重要テーマはワークショップの中でも意見が少なかったが、仕組みは全ての基盤になるので、見える化が必要ということだろう。

■グループ3

委員 基本的な考え方1、基本的な考え方2は対象がハッキリしており、行政にノウハウが蓄積されていると考える。一方、基本的な考え方3について、仕組みづくりに関する重要テーマの内容をもう少し明確にすべきではないか。恐らく、多摩市民の関心はハード面からソフト面へと移ってきているものと思われるが、ソフト面を向上させていく中心となる人材が十分にいる状態にはなっていないのだろう。そのため、行政の役割として、様々なアイデアを常に集められるような方法や人材の育成方法、運営するNPOの育成について、具体策を考えられないか。また、特に話題になっていたのは、基本的な考え方3の⑥「駅周辺を中心とした個性と魅力のある

商業拠点づくり」について、現在は聖跡桜ヶ丘と永山が違う個性をもったまちとして拠点化しているため、これらの個性を上手く伸ばしつつ、違う魅力のあるまちづくりをうまく考えられないかということ具体的に提案したい。

会長 基本的な考え方3の部分がやはり論点と思われる。また、まちの個性を認め、多様性のある都市として伸ばしていくことを考えてはという提案と考える。

全体で議論。

委員 基本的な考え方3の⑥「駅周辺を中心とした個性と魅力のある商業拠点づくり」について、聖蹟桜ヶ丘駅と永山駅の小売業の売上が伸びている一方で、多摩センター駅は厳しいという認識で良いのだろうか。

委員 多摩センター駅では聖蹟桜ヶ丘、永山と異なり小売業の売上は厳しい状況にある。

委員 基本的な考え方3の①「地域活動を市がトータルでバックアップする仕組みづくり」の意味がよく分からない。団地等で、入居当時は助け合っていたことが、高齢化により出来なくなっていることが一番の問題だろう。つまり、市民の活動の負担が多いということと思われるため、そこを行政にしっかり支援をして欲しい。

会長 以前の審議会で発言のあった、職員の地域担当性に関する提案からまとめられたものと思う。地域ごとに協議会のような組織を作りたいという市長公約が念頭に置かれていたと思うが、そのように職員が市民に出来るだけ近い距離に近づいていくことが出来ればよいということだろう。他に意見はあるか。目的と手段の関係については、抽象度をなくし、具体的で分かりやすい方が良いのか。個人的には具体的なことを記述した方がいいのではと考えている。

委員 フレイルという言葉は一般市民には理解しにくいと思われるため、括弧書き等で日本語をつけるなど、市民に伝えることを意識する必要があると考える。

会長 ⑧「若者世代・子育て世代の声をまちづくりに反映させる仕組みづくり」について、反映させるのは若者世代・子育て世代の声だけでいいのか、という意見もあったが、まちづくりや政治等への若者の参画を促すという意味では、あえて重要テーマに設定しても良いと考える。

委員 基本的な考え方3の⑤「若者、多世代の交流拠点づくり」は、一見分かりやすいが、実は内容が絞られておらず、具体化しようとするとう困難と思われる。そのように、一つ一つテーマを精査する必要があるのではないかと。

委員 各テーマが抽象的なため、この時間で全て検討することは難しい。庁内の議論を踏まえて、具体案が出たときに精査しても良いのではないかと。

事務局 10月以降に、各分科会に分かれて政策施策別の庁内検討を行う予定である。本日頂いた意見を踏まえて整理した内容を基に庁内検討を進め、第5回の審議会で改めて議論して頂きたい。

委員 庁内検討に関して、計画管理分科会では何を検討するのか。

事務局 審議会であまり議論頂いていない、資料3における「全体に関わる考え方」について、計画への落とし込み方を検討する予定である。また、財政運営等についても検討を行う予定である。

委員 計画管理分科会の内容が分からないが、計画の内容をどう発信するのかが見えてきていない。市民にどの様に発信するのか、までがセットだとすれば、計画管理とは発信力だと考える。それを忘れずにやって欲しい。

事務局 情報発信とPRについても「全体に関わる考え方」に含まれているため、それも含め計画管理分科会で検討したい。

委員 基本的な考え方3の⑧「職住近接のまちづくり」はややイメージが湧きにくい。⑦「サービス産業を中心とした企業誘致」が上手く進めば、⑧「職住近接のまちづくり」は部分的に進むかもしれないが、今回の基本計画に入れる必要があるか疑問がある。より長いスパンの考え方に見える。

委員 ⑧「職住近接のまちづくり」には、多摩市への企業誘致と、自宅近くでの就労促進の両方の内容が入っているのではないかと。

会長 確かに、企業誘致のみではなく、働く場所を地元で見つけるとか、今市内にある企業を職場とするということもワークショップでは話題になっていた。

委員 若者の起業促進も考えられる。人によってこのテーマからイメージする取り組みや目指す姿が異なるのではないかと。

会長 ⑦、⑧の統合よりも、⑧を具体化する方が良いという方向性だろう。時間が限られているので、事務局と私で調整した上で、皆さんに確認して頂きたい。

委員 「交流の拠点作り」というのは手段であり、ある目的のために結果的に多世代が

集まることが自然な姿と考える。そのため、重要テーマではゴールとなる目的を掲げ、手段は時代に合わせ考えていくと良いのではないかと。

【5 その他】

第5回審議会の日程は11月14日とすることで了承された。

事務局 考え方・テーマについては、今日頂いた意見等を踏まえつつ会長とも調整し、庁内検討を経て修正したものを改めてご確認頂きたい。

会長 分科会について、傍聴が可能な方は是非傍聴頂きたい。

【閉会】